

No.583 (改題543号)
2021年
7月27日(火)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4日曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

暮らしに密着した運動と組織へ
新社会党兵庫県本部が定期大会



運動と仲間づくりへ積極的で前向きな発言が相次いだ第27回定期大会=7月18日、神戸市勤労会館

新社会党兵庫県本部(粟原富夫委員長)は7月18日、第27回定期大会を神戸市内で開いた。今大会で党が取り組むべき主要課題として打ち出されたのは3点。第1に、コロナ禍で奪われた暮らしを取り戻し、より人間らしく生きるために、最低賃金上げや社会保障の拡充など、暮らしに密着した要求をもとにした活動を日常的に地域からつくりだし、自治体闘争に結びつけていくこと。第2に、コロナ禍対応で失政をつづける菅政権への人々の不満と怒りを市民と野党の共闘に結集し、秋の総選挙で菅政権打倒と政権交代を目指すこと。さらに、23年の統一自治体選挙をはじめ、当面する自治体議員選挙に候補者を立てて闘っていくこと。第3には、結党から25年の間に培ってきた運動と組織を次世代に引き継いでいくという課題だ。大会ではこれらの課題に沿うように各代議員から取り組みが報告された。

大会では粟原委員長のあいさつ(2面に要旨を掲載)ののち、コロナ禍を考慮して来賓の出席は政党だけに限られたが、立憲民主党(松川治郎郎副代表)、社民党(大橋ゆづこ全国連合副代表)、共産党(松田隆彦県委員、松本なみほ県本部共同代表)から野党共闘の発展と菅政権打倒を訴える連帯のあいさつがつついた。午後からの討論の冒頭、

岡崎ひろみ中央本部委員長があいさつ。新自由主義の矛盾のなかで新たな価値観を持ち始めた若い世代の意識の変化にも注目し、党はとにかく仲間を増やすこと、次世代に引き継ぐことの1点に全力をあげることを強く訴えた。その後、事前の発言通告にもつき18人の代議員から積極的で前向きな発言がつついた。

立憲予定候補の選対(10区)や市民選対(7区)に関わっている党員の活動報告は野党共闘における新社会党の役割を再確認するものとなった。さらに、憲法を生かす会運動や脱原発闘争、コロナ禍のなかでの、指示待ちではない、自主的創意をこらした大衆行動、高齢者や女性の運動の報告なども相次いだ。

このほか、2人の青年党員による、若い仲間づくりの学習会の取り組みや、青年委員会のさらなる活性化への支援を訴える発言によっても大会そのものが元気づけられた。大会では、次世代への引継ぎも展望した書記次長の2人増員(3人体制へ)や青年、女性の執行委員の増員を含む新たな役員体制を選出した。

神戸市政を考える連続学習会
第2回「新型コロナ対策の現状と財政問題を考える」
●7月27日(火)18時30分
●神戸市勤労会館405
●講師:あわはら富夫神戸市議

有本芳水之碑

(姫路市飾磨区)

有本芳水(本名・敏之助)は、1886年(明治19年)兵庫県飾磨郡田村(現・姫路市飾磨区)で生まれた詩人・歌人である。

岡山市の関西中学校に

47 物語

ひょうご 碑

1945年、夫人の生家のある岡山県上道郡に疎開したのをきっかけに、そこに居を移し、その後、

吉備学園や岡山商科大学、岡山大学でも講師をするうちに、この地を第2の故郷と決め、1976年永眠した。



1886年に現・姫路市飾磨区に生まれた詩人であり歌人の有本芳水の碑が生誕地の近くに建てられている。

詩碑は、岡山の後楽園等、岡山県にも多い。「芳水詩集」の「序」には、「この詩集をよまれた人達よ!卿はこの集の中に、巡禮と、赤き灯と、脚絆と、すげ笠なる文字の餘りにも多きに驚き給ふらむ。また旅といふ文字の餘りにも多きに眉をよひそめたまふらむ」とあり、「旅にしあればしみじみと 赤い灯かげに泣かれぬ」とある。

【メモ】山陽電鉄飾磨駅から南へ徒歩約3分。

市政要 弘太とみんなの会 キックオフ集会で出発

市民ひとりひとりが分け隔てなく暮らせるまちづくりをめざしたい。重度の障がい者・児が生活する福祉施設で23年間働いてきた要弘太さん(45歳)が、2023年の市議会選挙に前田辰一前市議の後継者として立候補することを決意。その要弘太さんを支援し共に歩もうと7月17日、「要弘太とみんなの会」キックオフ集会が芦屋市内で開かれた。

冒頭、同会の代表に就く、市議を7期務めてきた前田さんがあいさつ。「知名度ゼロからの出発だが、要さんは、まさに今、政治に求められている人だと確信している。若さと行動力に期待したい」と要さんを紹介。決意表明に立った要さんは、過酷な労働環境の福祉施設で働き続けてきた苦勞とそのなかで得た喜びなどを語り、少しくとも仲間とともに



支える会の出発にあたって市政挑戦への決意を述べる要弘太さん=7月17日、芦屋市

をめぐって闘う山口みさを芦屋市議もかけつけ、要さんに激励の言葉を送った。休憩後の講演では、茨木市議会議員の山下けいささん(新社会党大阪府本部委員長)が「どうすれば選挙に勝てるか」と題し、約40年間にわたって議員生活を務めてきた自らの活動経験にもとづく選挙戦略や戦術などを具体的に述べ、要さんへの激励とした。

水脈

拙文が掲載される今号発行時はオリンピックが開催されているだろう。日々の憂きの開放に勝負事は昔から利用された。スポーツ観戦は「アスリートの努力を称える」というような行儀の良さよりも大半は鬮の勝ち負けに我を忘れて、たとえひと時でも日々の問題から目をそらす(目をそらさせる)ことにも使われた。ガースー以下の、国民に語る言葉を持たない政治家、官僚、財界人たちは、決行してしまえば国民多数は24時間絶え間ない(それを見るしかない)「五輪中継」漬けになる。不都合なことはそのうち忘れるとも考えているのだろう。ニッポン、日の丸背負って、金メダルと、ひととき甲高い中継の音が聞こえるように、特別扱いの五輪開催の地は4度目の緊急事態宣言発出中。1年以上自己犠牲を強いられてきた人々の暮らしは崩壊寸前。大号令に振り回されながらも接種体制を整えた各自治体へのワクチン供給が行き届かない。やっとなりてきた基礎疾患も取り消しだ。虚しさや白けた空気の中の五輪開催。競技する選手たちの心情を思う。国民の暮らしとは「全く別の地平」にある政権を変えよう。今夏、私たちは日々の憂きから目をそらさない。

現場の苦労などを交流

アイ女性会議ひょうごが第60回大会

アイ女性会議ひょうごの記念すべき節目となる第60回大会が7月4日、神戸市内で開かれた。コロナ禍を経て2年ぶりに



2年ぶりのリアルの対面での交流を喜び楽しんだ大会＝7月4日、神戸市中央区

アイ女性会議ひょうご リアルに顔を合わせ、近況を交流しながら、対面することの大切さを感じ、しみと共有しあう大会となった。

大会では、コロナのワクチン接種をめぐっての論議が集中。二転三転する政府の方針に振り回された自治体担当者や、医療介護現場の苦労や、接種しない人に対する排除の動きが出ていることなど新たな差別の危険性も指摘された。

教育の現場ではコロナ禍で前倒しされた教育GIGA構想の問題点も。「ひらがなもおぼつかない孫がランドセルにタブレットを詰め込んで帰ってきた」など、学校現場や家庭に持ち込まれた混乱とそこから生じる格差にもしっかりと目を向け、

神戸空襲を記録する会・前会長

中田政子さんが逝去

神戸空襲を記録する会・前代表の中田政子さんが6月26日、亡くなった。75歳だった。

同会事務局長の小城智子さんから追悼文を寄せられた。【編集部】

中田政子さんを偲ぶ

中田政子さんが亡くなったのを知ったのは6月28日、お嬢さんからの「東京オリンピック中止！」を訴えるスタンディング行動を行った。行き交う人々はそのプラカードの訴えをしばしば見て通り過ぎ、「なんで反対なんですか」と真剣に尋ねてくる学生もいて、インパクトのある行動となった。

電話でした。あまりの驚きに声も出ませんでした。早すぎます。お元氣になられたら、1997年から神戸空襲を記録する会の代表を担って始められた取り組みについて聞き取りをさせていただく予定でした。戦跡ウォークを始め、「震災後の神戸」と2度目の全国大会開催地に立候補、会場を中央小学校とし、学校での空襲体験をお話しする第一歩とされました。

合同慰霊祭であいさすする中田政子さん

また、神戸市に何度も陳情し、8千人と言われた空襲犠牲者のお名前をおひとりおひとりの生き証として集めることを

「一生懸命生きてきた命があった。今語りたい命はつながらず、そして平和と命の大切さを次の世代に語り継いでほしい。いつもそのことを訴えてお話を終わりました。」

「私たちは、中田政子さんからのバトンをしっかりと繋いでいきたいと思えます。」

改憲の動きをウォッチング

■菅政権初めての防衛白書と武力行使の要件

政府は7月13日、菅政権初めての2021年版防衛白書を承認した。

岸防衛相は白書の「刊行に寄せて」の中で、「中国は東シナ海や南シナ海において、一方的な現状変更の試みを続けている」

「わが国固有の領土である尖閣諸島周辺において、わが国領海への侵入を繰り返している」と批判し、「こうした安全保障環境上の課題に対抗していくためには、わが国自身の防衛力を強化し、特に、わが国唯一の同盟国である米国との連携は最も重要」と表明している。

「米国と中国との関係に関する節が初めて設けられ、中国は、台湾周辺の軍事活動をさらに活発化させている」と指摘。バイデン政権が、軍事面において台湾を支援する姿勢を鮮明にしているなか、「台湾をめぐる米中間の対立は、一層顕在化していく可能性がある」と強調している。

さらに白書は、「台湾をめぐる情勢の安定は、わが国の安全保障にとって

はもとより、国際社会の安定にとっても重要」と、台湾情勢のことが白書に初めて明記された。

「台湾有事」をめぐっては、麻生副総理が「大きな問題が起き、日本に存立危機事態に陥れば、並み低くしている。」

菅内閣の支持率低迷が続く。読売でも不支持は内閣発足後最高

メディアの世論調査で菅内閣の「支持率」は軒並み低下している。

読売新聞でも直近の調査で(9日～11日)支持率は37%、不支持率は53%に上がり、内閣発足後最高となった。

とりわけ、東京都民の政府に対する厳しい評価が目立つ。支持率は28%で(全国平均37%)、6月調査から3%、5月調査から12%の大幅低下。不支持率は63%(同53%)にも達した。

4度目となる緊急事態宣言で感染拡大防止に効果があるとは「思わない」

結果があるとは「思わない」73%(同56%)。東京五輪では「中止」50%(同41%)で、「無観客」は28%(同40%)を大きく上回った。

コロナ対策や五輪対応の失敗に対する東京都民の不満の噴出であり、菅内閣に不信任を突きつける

京五輪強行か。

(中)

栗原委員長あいさつ(要旨)

先月行われた尼崎市議選は、「維新旋風」が吹き荒れる中、つづき徳昭さん先頭に地元・尼崎総支部はもちろん、県下の党組織をあげた支援で議席の維持ができた。

今年西脇市議選、神戸市長選も予定されており、現職の当選に全力をあげる。来年は神戸町議選の分裂から始まり、

選、加古川、高砂の両市議選、そして再来年の4月には統一自治体選挙。それぞれの選挙での候補者擁立をめざし、現職議席の維持と拡大にこの2年弱を全力をあげて行く。

今の特典はまだ県知事選の結果は不明だが、今回の知事選は自民党県議団の分裂から始まり、

維新の参与、菅政権の地方自治への介入がある。与野党対決の構図にもなった。新社会党県本部は、「維新旋風」が兵庫

野党共闘の強化で菅政権打倒へ

最終的には総支部・支部代表者会議での討議でその決定を行った。

知事選が終わって、いよいよ秋には衆議院選挙だ。菅自公政権は、国民無視のオリンピック開催強行への暴走と、コロナ禍対応の迷走で支持率を大きく下げている。自民

国民には信頼できる「受け皿」が見えていないことに尽きよう。新社会党は国政に議席が無く影響力も小さいが、県下のさまざまな労働運動や市民運動にも関わりも持つなかで、すでに立憲民主党、日本共産党、社会民主党とそれぞれ政

策協定を結び、8選挙区で一本化された野党予定候補と比例区の推薦を決め、選挙の活動にも参加しつつある。市民と野党の共闘をさらに強固にし、総選挙で菅自公政権打倒に全力をあげよう。

そして来年は参院選。参院選に向けては、市民と野党の共同闘争をさらに広げ、国民の多様な政治信条を保障するために、幅広い新しい政治潮流が求められている。国民が信頼を寄せることができる「受け皿」をつくるためにも、市民と野党

の強固な共闘は必要であり、そのためには新しい潮流が国政の場で一定の議席を得る必要がある。

いま世界を覆うコロナ禍や気候危機の背景には、大量生産・大量消費の社会構造があり、その構造は極端な貧困・格差を生み出している。コロナ禍

や気候危機、貧困・格差は同じ根を持ち、これを克服する新たな社会構造をつくりだそうとする動きが世界でも広がり、日本でも新たな社会像への研究が始まっている。

これらの動きにも連動しながら、コロナ禍からの生活再建、貧困・格差の是正、脱原発、グリーンリカバリーなどでの気候危機からの脱出、ジェンダー平等など差別のない多様性社会の実現、辺野古新基地に反対し、憲法9条を世界に広げるなどの多くの共通課題を基軸に、新しい政治潮流を生み出すことが求められている。その課題を受け止め、がんばろう。

菅政権初めての防衛白書と武力行使の要件

菅政権初めての防衛白書と武力行使の要件

総選挙での選挙協力

新社会党と社民党が政策協定

比例区(大椿ゆうこさん)で推薦

新社会党中央本部(岡崎宏美委員長)と社民党全国連合(福島瑞穂委員長)は、来る総選挙での政策について合意し、新社会党は社民党の候補者を推薦することを含む政策協定を6月24日に調印した。協定では、消費税

減税や税と応能負担を原則にした社会保障制度の改革など、13項目の政策で合意している。加えて、政権交代の実現に向け小選挙区における立憲野党共闘の推進に全力をあげることや、来年の参院選における共同の闘いを成

新社会党の推薦予定候補

比例区(近畿)

大椿ゆうこさん(社会民主党)



1973年生まれ。岡山

4区

今泉まおさん(立憲民主党)



1978年生まれ。東京都出身。衆議院議員。党

6区

桜井シウウさん(立憲民主党)



1970年生まれ。伊丹

7区

安田真理さん(立憲民主党)



1978年生まれ。石川

9区

福原ゆかりさん(日本共産党)



1987年生まれ。鹿

10区

おき圭子さん(立憲民主党)



1971年生まれ。神戸

12区

酒井孝典さん(立憲)を推薦

新社会党兵庫県本部(粟原富夫委員長)は、兵庫12区から立憲民主党公認で立候補を予定している新人の酒井孝典さんの推薦を追加決定した。これで小選挙区の推薦予定候補は8人となった。

加古川で憲法カフェ開催

若者2人が「広島から平和の訴え」

憲法を生かす加古川・稲美・播磨の会は7月3日、県加古川総合庁舎内の「かこむ」で第7回憲法カフェを開き、22人が参加した。

「広島から平和の訴え」をテーマにした憲法カフェでは、27歳と26歳と若い2人に被爆地ヒロシマを前に熱く語りだした。

「めぐる感想や思いを語ってもらった。姫路市在住のKさんは、「21歳で広島を訪ねた時、平和資料館で直視できない映像に愕然とした。そんな事実はそれまで教えられてこなかったし、衝撃が走った」と、パネルを前に熱く語りだした。

5区

梶原やすひろさん(立憲民主党)



1956年生まれ。埼玉

8区

こむら潤さん(日本共産党)



1975年生まれ。尼崎

12区

酒井孝典さん(立憲民主党)



1960年生まれ。伊丹

者としての真相にふれることで、青年に平和のことを考える機会になり、日ごろは仕事でそれどころではないと居る青年たちには、「無関心ではいられない」と「広島の旅の意義を訴えた。

「なぜそこまでめりこんだのか」との参加者の質問に、Kさんは「広島に、無意味は死」はない！悔しい！」と涙ながらに訴えた。

コロナ禍のなかで十分な取り組みができないが、若い2人からの訴えに、今後も地域で取り組みが継続できるように考えていくとそれぞれの思いを出し合った。



27歳と26歳の若者がヒロシマをめぐる思いをそれぞれに語った=7月3日、加古川市

(藤井)

地域ユニオン あちこちあれこれ

成果の報告もあった。今後の活動方針については、豊岡短大分会の労働保険審査会の再審査請求「棄却」の結果を受け、裁判闘争の方向を模索し闘いを継続していくことなどが提案された。

討論では8人が発言。短大分会のM組合員は県労委の闘いの支援にお礼を述べ、「働く者の考え方を示すことができた」。

負けても闘うことが大切

「負けても闘うことが大切」と、元気をもらえらる総会となった。

最後は、委員長に復帰した岡田一雄新委員長のリードで、間仕切りの隣部屋への配慮のため「声なき団結カンパニー」で締めくくられ、今年の総会を無事終えた。

島田斉(但馬ユニオン書記長)

- 第17回ピースフェスタ明石 ~平和・いのち・子ども~
- 8月5日(木)~10日(火)11時~19時 (ただし10日は18時まで)
 - JR神戸駅南地下街 デュオギヤらびー
 - 8月13日(金)~22日(日)9時~21時 (※16日(月)は休館日、20日(日)は17時まで)
 - 8月16日(月)~18日(水)ウォールギャラリー展示
 - 8月18日(水)~22日(日)10時~16時
 - 明石市立勤労福祉会館1Fギャラリー
 - 田島征彦の世界(絵本の原画展)
 - 「たじまゆきひこ講演会」
 - 8月22日(日)13時30分~15時/2F
 - 「戦争体験談の集い」
 - 8月21日(土)10時~11時30分/2F

「原爆と人間」写真展 入場無料

●8月5日(木)~10日(火)11時~19時 (ただし10日は18時まで)

●JR神戸駅南地下街 デュオギヤらびー

●8月13日(金)~22日(日)9時~21時 (※16日(月)は休館日、20日(日)は17時まで)

●8月16日(月)~18日(水)ウォールギャラリー展示

●8月18日(水)~22日(日)10時~16時

●明石市立勤労福祉会館1Fギャラリー

●田島征彦の世界(絵本の原画展)

●「たじまゆきひこ講演会」

●8月22日(日)13時30分~15時/2F

●「戦争体験談の集い」

●8月21日(土)10時~11時30分/2F

おんなの目

福島原発事故

故から10年。放射能から離れて一時保養を希望する親子のための日本YWCA「セカンドハウスプログラム」も10年になる。私は空き家になっていた両親の家を提供し、「大家」として神戸YWCAのメンバーと活動に参加。この間延べ72家族、250人余りの方と出会う機会をいただいた。

「セカンドハウスプログラム」では、放射能を気にすることなく、家族で普通の暮らしをしていただく。迎える神戸YWCAメンバーのお付き合いは、駅でのお迎え、家でおしゃべり少々、近所のお店で歓迎夕食会、そして出発の朝のお見送りというのが、普通のパターンだ。

震災後間もない時、お母さんから近所の方で放射能の話はしにくい、話ができるかどうかは洗濯物を家の中に干しているか、外に干しているかで判断していると聞き、被災地の人間関係の複雑さを教えられた。

もう少し時間が経ってからは、学校で給食を食べさせるか、お弁当を持たせるか、グラウンドで遊ばせるか、プールに入らせるかなど、ひとつひとつの対応に苦労されていた。また、近所の人に、中には姑さんにも保護に出かけることを言えずに来ておられるという話も

多々あった。2012年、正月に帰られた家族からは震災当日の話聞いた。ご両親は小学校と高校の教員、中学生のお兄ちゃんも当日が卒業式でいつもより早く帰宅し、ひとり家にいた。家族4人がバラバラで被災し、孤立した小学校職場におられたお母さんを除く3人が避難所で合流できたのは夜だった。

福島の親子との出会い

たちただ事でないことを伝えられないかと、仲間と一緒に昼休み時間、マスクをし、物々しい制服を着て地域を自転車で走り回られたというのだ。

震災後、子どもたちは全国、世界からプログラムに招かれた。小6(2013年当時)のRくんも、香港やイタリアのプログラムに参加したそう。団体とはいえ、小さな子が親から離れて長期間辛くはなかったかと心配するが、本人はいたってクールで頼もしい。イタリアのプログラムはアリタリア航空社員の企画で、ステイ先のお母さんは観光ガイドで働くワーキングママ。留守の間は家の子たちと同じようにお小遣いをもらって、おじいさんにお世話になったそう。イタリアの、世界の人たちの温かい気持ちが嬉しく、感謝した。

それまでは遠い存在の福島だったが、家を提供することで、たくさんの方々に出会い、貴重な学びがあった。今、電力会社・国は人々の生活や環境を顧みない汚染水・汚染土処理を進め、原発再稼働までしようとしているが、福島の人たちが過ごされた10年の日々・苦勞を忘れずにいたいと思う。

(H.K.)

たそう。お母さんの小学校での苦勞も含めて、家族が当日の話を一緒にしたのはその時が初めてだなぁと言いつつおられたのに、びっくりした。振り返る間もなく無我夢中で来られた9ヶ月余りだったのだろう。

消防士のお父さんから、こんな話もあった。当日、事故発生が公表されていらない時、地域の人



『寅さんの「日本」を歩く』

岡村直樹著／天夢人／1800円＋税

最近まで、繰り返しテレビでシリーズの再上映がされていたが、その総括でも言うべき「男はつらいよ」50周年を記念して本書は生まれた。寅さんファン必読の書だと思ふ。

全編の内容を概括的に紹介したい。

「何て言ったらいいのかなあ。俺が俺でいられる場所、なんにも気にしないで、今日一日を振り返る場所、そんな大切な場所って、誰にでもあるだろう」――第1章は「寅さんの大切な場所」として、駅／茶の間／縁日／野道／車内／商人宿などがコマ写真で紹介されるが、これらの写真を見ているだけでいろいろな作品が思い出される。茶の間では家族との口論がいつも大喧嘩に発展するが、寅さんにとっては一番心安らぐ場所だ。

人間の触れ合いの場でもあり、多くのマドンナ達との掛け合いはいつ見ても心が和んでくる。

第2章以下、「寅さんと温泉」(以下「寅さんと」略)絶景／城下町／名刹・古社／港町／水景／島と、第8章まで懐かしい写真付き。

一番詳しい聖地探訪大辞典(副題)

まで紹介され、第9章では「寅さんが愛した昭和」というテーマで、残したい昭和の生活遺産(宿場町、芝居小屋など)や、生活用品(雪駄、ちゃぶ台、公衆電話など)が詳細に紹介され、世相の変遷をたどる上でも懐かしくなる章だ。

寅さんが利用した公衆電話は、10円硬貨を使う赤や黄色のダイヤルを回す電話機だったが、最近の若者はプッシュホン式は使ってもダイヤル式は使い方がわからない、というところから

とを聞いたことがある。スマホ世代の若者に向かって寅さんは何を発信するだろうか? 第10章は、「寅さんの全作・全口ケガイド」で、寅さんが歩いた日本330ヶ所の紹介だ。全国くまなく訪れているが、高知県だけはなぜか足を運んでいない。

庶民生活に根ざしたローカルな文化が息づく場所も好んで訪れている。日本の原風景といったものが失われつつあるなか、映像として残っているのは貴重な財産だ。

私が最も美しいと思った風景は、第10作「寅次郎夢枕(1972年封切り)」で名優、田中絹代が出演した際の晩秋の甲州路だ。テキヤ仲間が眠る名峰を眺める墓地で、彼女に案内された寅さんが合掌するシーンは忘れがたい。

観客の反応の仕方もまた研究対象となるらしい」と著者は語る。

私は、本書にやや不満もある。寅さんの生みの親である山田洋次監督について、もう少し詳しく紹介し、あわせて日本文化のひとつである「落語」がシリーズ作品中、随所に展開されていることに触れて欲しい。例えば、山田監督は、寅さんの出入りを面白くするために落語の「笠巻」を多用している。「暮敵は憎さも憎し懐かしし」――『笠巻』はそれをテーマにした傑作だ。暮でケンカ別れをし、好きな暮を打ちたいが、なかなかケンカ相手の家に入れない心理を作品の中に活かしている。「こんな家に二度と帰らねえ」とタシカを切った寅さんが、雨宿りのふりをしながら「どらや」の前を往復したり(第4作)、変装して店内をうかがう(第7作)などして笑わせる。落語の活用は他にもあるが、『猿蓑家』や『粗忽長屋』など数多い、それはまた別の機会に……。

本書を読んで、また、シリーズ作品を見たくなってしまった。(大野克美)

本棚

私がクマにキレた理由(わけ)

大学を卒業したヒロインが、ひょんなことでニューヨーク・アップアイーストサイドに住むセレブ一家の幼いひとり息子(ナーニー)のナニー(子守り)になる物語。

看護師の母の手一つで育てられたナーニー(スカレット・ヨハンソン)は、大学を卒業したばかりで、就活中。会社の面

接で「あなたはどうなるの?」と尋ねられたが、答えが出て来ない。セントラルパークでぼんやりと考え事に沈んでいたナーニーは、目の前で起こりそうになった事故からグレイヤー少年を救出した。そこへディオールへのヒールを履いた女性が現れる。少年の母親である。

ナーニーは、このミセスXから少年のナーニーが辞めたばかりなのでナーニーになってもうたえなかと依頼される。

ナーニーは、「しばらくナーニーを務め、そのうちに

自分に適した仕事を探そう」とミセスXの家に言う。仕事が過酷だった。グレイヤーを習い事に連れて行ったり、手作りの食事を食べさせたり、ミセスXに急用ができれば、休日も返上しなければならぬ奴隷のような生活が始まった。

ナーニーはミセスXに言う。「子どもが熱を出しているのに、子どもに目を向けたらどう?」それでもグレイヤーは、あなたを愛しているよ! グレイヤーは本当に素晴らしい子よ!と。

しかし、ミセスXの話を聞いているうちに、彼女もまた母親にあまり構ってもらえず、寂しい境遇で育ってきたのだということが分かってくる。

ある時、ミセスXの別荘でパーティーが開催された。同じビルの12階に住むハーバードのイケメンから「そんなひどい仕事は辞めて旅行に行こう」と誘われていたが、グレイヤーが心配でパーティー行きを拒否。そこでナーニーは、ミセスXが「ナーニーカメラ」を家に取付けたことを知る。ミセスXは、ナーニーがミスターXを誘惑していると誤

解したからだ。そしてさらにクビが宣告される。グレイヤーは泣いて必死で止めるが、叶わない。別れ際にミセスXから渡された最後の報酬はスズメの涙程度だったこと。もあって、プチギレたナーニーは後日、自分の荷物を引き払うためにミセスX宅に戻った時、「ナーニーカメラ」が仕込まれてい



るところがどこなのか必死で探す。そして、ついにクマのぬいぐるみに仕込まれているのを探し当てると、そのカメラに向かって思いのたけを爆発させていく。

ナーニーは思う。「何もかも手に入れていた人が、なぜあんなに惨めなのか」と。また、「1年前、私は自分が何者であるか分からなかったが、私は私を発見した」と。

深刻なストーリーだが、コメディタッチで仕上げられており、ホロリとさせながらも楽しい映画である。

(谷)

監督IIシャリ・スプリング・バーマン、ロバート・フルチーノ
2007年/米/106分

シネマランド

コメディ仕立てで見せる上流家庭

ナーニーは、「しばらくナーニーを務め、そのうちに」

ナーニーは、このミセスXから少年のナーニーが辞めたばかりなのでナーニーになってもうたえなかと依頼される。

ナーニーは、「しばらくナーニーを務め、そのうちに」

ナーニーは、このミセスXから少年のナーニーが辞めたばかりなのでナーニーになってもうたえなかと依頼される。